

兵庫県立西宮病院 地域医療連携室便り

# はまかせ

2009年8月  
第14号

## 「兵庫県立西宮病院整形外科の紹介」

整形外科部長 正田 悦朗

今回は、整形外科について紹介させていただきます。

当院の整形外科では主に関節疾患（変形性関節症、RA など）、脊椎疾患、骨折や脱臼、アキレス腱の断裂などの外傷、半月板損傷や靭帯損傷などのスポーツ障害を扱っています。小児疾患、腫瘍は原則的に専門的な治療を必要とする事が多く、専門医がおられる施設に紹介させていただいています。

このため、取り扱う手術の内容としては人工関節手術（股関節、膝関節）、脊椎手術、関節鏡手術（膝半月板損傷、靭帯損傷、変形性関節症など）、脱臼の整復や骨接合術などの外傷の手術が主となっています。（表1）。

人工関節手術では、最近評判の MIS（Minimally Invasive Surgery: 最小侵襲手術）まではできませんが、できるだけ切る範囲を少なくし、筋肉なども大事に扱い、術後のリハビリテーションがスムーズに進むように努力しています。また、脊椎手術の一部では顕微鏡視下の手術を行なっています。内視鏡での手術に比べると切る範囲は大きいですが、視野が明るく大きく見えますので、細かいところまで安全に手術を行なう事が可能です。関節鏡手術は主に膝関節に対して行なっていますが、半月板損傷や靭帯損傷がその中心です。また、高齢者の変形性関節症でのクリーニング手術やRAの滑膜切除なども鏡視下に行なっています。

私がこの病院に着任した時にはスタッフは4人で、外来、手術、病棟と手一杯でした。外来は毎日夕方までかかる、そのため並列で手術ができず手術件数は増えない、手術が終わるのが遅くなるので私たちも病棟のスタッフも遅くまで帰れない、と言う具合でした。これは、なんとかしないといけないと思っていたうちに1年、2年と経過してしまいました。昨年4月に電子カルテが導入されたのを機会に保存的治療を長く継続している方や薬だけの方は誠に申し訳ありませんでしたが、近隣の先生に紹介させていただきました。また、今年2月からは初診では、紹介状を持参していただく事にいたしました。いろいろとご迷惑をかけていることと存じますが、引き続きのご協力よろしくお願いいたします。このシステムに変更した事により初診が遅くても2時頃までには終わるようになり、午後から並列で手術が行えるようになりました。この分、手術が必要な患者様などにつきましては、できるだけ受け入れ、早期の治療を開始したいと考えていますが、解決できていない諸事情のため、ご希望に添えずにご迷惑をおかけしている場合も多くあると思います。ただ、急性期病院であり療養型や慢性期の病棟はありませんので、圧迫骨折や高齢での安静目的だけの入院に

つきましては基本的にはお引き受けする事ができないのが現状です。

現在のスタッフは私と大内、円山、鈴木、北田の5人です。大内、円山両先生は私が来る以前から勤務しており、この5年近く一緒に働いております。このため、だんだんと手術の時など次に何をして欲しいかがわかるようになってきており、手術時間も随分短くなってきています。手術中やや短気になる傾向がありますが、助手が周囲を和ませ、だいたい穏やかに進んでいきます。長くかかれれば感染も増えますし、周囲のスタッフも疲れますのでよい傾向かと考えています。

### 各スタッフの専門領域、特徴をお知らせいたします。

**正田 悦朗**：関節疾患（人工関節）、外傷、スポーツ障害（関節鏡手術）

三カ所目の県立病院ですが、2000年に県立淡路病院に勤務したのは当時の教授に“大学に帰って脊椎を担当しろ”と言われたのを即座に断ったための島流し人事でした。このため、脊椎疾患は専門外としています。県立淡路病院、柏原病院で新鮮な外傷の症例を多く経験し、今もそれを中心に治療を担当しています。また、アメリカ留学中は膝靭帯損傷の研究をしており、帰国してからも関節鏡などスポーツ外傷の治療も行っています。また、ヴィッセル神戸のチームドクターの一人としてチームの試合に同行することもあります。

**大内 聖士**：関節疾患（人工関節）、脊椎疾患

いろいろな病院で神戸大学のレジデント制度によって研修を行い、その経験と知識は非常に豊富です。手術は主に人工関節、脊椎を担当していますが、術前の経過の緻密さなどはまねできません。

**円山 茂樹**：関節疾患（人工関節）、脊椎疾患

大内先生と同様、レジデント制度によって各病院で研修を行い、どんな手術でも器用にこなします。プロゴルファー“世界の丸山茂樹”とは字が違いますが、発音は同じです。話がうまく患者様を引きつけます。

**鈴木 暁子**：関節疾患（人工関節）、外傷

今年専門医になりましたので知識力は一番です。手術も経験年数よりは遙かに上手でどんな手術でもすばやく正確に行ってくれます。

**北田 真平**：

今年卒後4年目ですが、当院で新臨床研修を行い、その後、引き続き整形外科に所属して2年目です。外傷に興味があり、どんな外傷でも担当してくれます。また、新臨床研修制度を受けていますので、内科的合併症にも対応できます。

外来スタッフは2名の看護師と3名のクラークで行なっています。4月以降前年と全員が入れ替わりました。患者様の容態や地域との連携を考えて毎日多くの仕事こなしてくれています。

病棟は2号棟4階が整形外科の病棟ですが、みんな遅くまで頑張って仕事をしてれています。動けない人たちや認知症のある方ですっとコールを押してくる人たちの対応など、時には介護士に

なり家族のようになつたりしてくれています。私たちが外来や手術を早く終わる事で、病棟スタッフも仕事を速く終わることができますので、努力中です。

整形外科医は全身管理が苦手ということもあり、他科の先生には、合併症などにつき的確なアドバイスをいただいています。外傷の治療を含め、緊急性が要求される事も多く、放射線科や検査科のスタッフには急な依頼や緊急での検査をお願いし、受け入れていただいています。また、手術室関係者や麻酔科の先生には緊急手術などで無理をきいていただいています。このように病院の中では小さな科ではありますが、各方面から支えられて診療を続けています。

最後になりましたが、大腿骨近位部骨折の地域連携バスを中心に発足した西宮整形外科地域連携会に当院も手術を行なう急性期病院の立場で参加しています。地域連携室では、この連携会での活動も含め術後や療養型での治療が必要な患者様の転院調整を行なってもらっています。今後はこのような地域との連絡会でも積極的な役割を果たし、また、地域連携室を通じての病診、病々連携を更に進めていきたいと考えております。よろしくお願いたします。

表1. <外来および入院患者数、手術症例数 平成20年度>

外来患者数総計：15907人

初診患者数：1676人（紹介：419人、救急搬入：38人）

入院患者数：16827人（1日あたり：36人）

手術症例数：438例

人工関節置換術：83例（膝関節：52、股関節：28、再置換：3）

脊椎疾患：41例

関節鏡手術：29例

外傷(骨折、脱臼など)：162例

肩関節手術：7例

手の手術：52例

足の手術：15例（アキレス腱断裂：4例）

抜釘：26例

その他：23例

## 「兵庫県立西宮病院リハビリテーション科の紹介」

リハビリテーション科 医長 大内 聖士

当院リハビリテーション部門は、昭和48年4月に理学診療科が開設され、昭和50年10月に施設基準・理学療法Ⅱを取得しました。また平成15年に脳神経外科が新設されたのを機に平成16年7月には言語聴覚療法部門を立ち上げ、同年9月に言語聴覚療法Ⅲを取得しております。

2009年7月現在、運動器リハビリテーション（Ⅰ）・脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅲ）・呼吸器リハビリテーション（Ⅱ）の施設基準を取得し、リハビリテーション科として運営しており、スタッフは、医師1名・理学療法士6名・言語聴覚士2名・受付1名が配置されています。

対象疾患は、理学療法部門では骨折・変形性関節症・脊椎疾患等の運動器疾患領域が63%、脳血管障害・脳腫瘍・頭部外傷・パーキンソン病等の脳血管・神経筋疾患領域が30%、呼吸器疾患領域が7%となっています。なお救急医療センターを有するため、頭部外傷に四肢骨折や胸・腹部外傷などを合併した複雑な症例にも積極的に取り組んでいます。また言語聴覚療法部門では嚥下障害・高次脳機能障害・失語症等の脳神経外科疾患が中心となっています。

急性期リハを担う当科では、できるだけ早く関節可動域・筋力訓練や日常生活動作の練習・呼吸や摂食嚥下訓練を開始し、早期離床・早期回復や社会復帰を目指しています。しかし、長期入院によるリハビリテーションが必要な患者さんも増えてきており、リハビリの継続のための転院により、回復期病院や地域の医療機関のスタッフの皆様にお世話になることが今まで以上に多くなることが予想されます。地域医療連携などを通じて、よりスムーズなバトンタッチができるように、今後とも努力していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



## 《地域からのメッセージ》

### 県立西宮病院との医療連携

ひろせ整形外科クリニック 院長 廣瀬 哲司  
(宝塚市仁川北)

当院は阪急仁川駅前であり丁度西宮市と宝塚市の境に位置します。周辺は学校も多く整形外科を受診される方は学生層から高齢の方々まで様々です。

開業医にとって地域の病院にお世話になる機会は多々ありますが一番病院に助けていただくのは緊急に入院を要する場合でしょう。私の専門の整形外科で本当に困るのは①緊急の入院を要する骨折、大腿骨頸部骨折はもちろん小児の上肢の骨折、②骨粗鬆症で起こる脊椎圧迫骨折のなかで神経麻痺を併発してきたもの、③病的骨折と呼ばれる悪性疾患などが合併している骨折、④スポーツ活動であるレベル以上の選手の手術治療などいずれも主治医になると手間はもちろんその上に様々な悩みの種を抱えることになりますからできれば避けて通りたい分野になります。リスクを抱えて入院治療が必要なこういった症例を今まで県西病院整形外科の正田先生、大内先生はじめ各先生方に幾度となく助けていただいております。無理かなと思いつつお電話すると「いいですよ。」と頼もしいお返事をいただくときの安堵感は開業医としては大変ありがたいことです。外傷、変性疾患といった一般整形外科から手術を要する関節疾患、脊椎疾患まで幅広く受け入れていただいております。地域の中核病院として使命感と積極的な治療方針が際立った頼もしい病院です。これからもいろいろ厄介なお願いをすることと思いますがよろしくお願いいたします。

みやみつ整形外科リハビリクリニック 院長 宮光 世裕

平成16年4月に阪神西宮駅南に位置するエイビスプラザ内に開業いたしております、みやみつ整形外科リハビリクリニックの院長 宮光 世裕です。当時はまだ阪神大震災の傷跡がまだまだ残っていた阪神西宮地区において、震災復興事業の一環としてクリニックビルが出来ると聞き、神戸の病院で勤務していた際に震災を経験した私にも微力ながら貢献できればという思いから、この地で開業することにいたしました。

整形外科とは、四肢・体幹運動器における機能回復を主眼とした学問であり、整形外科の保存治療の中では、リハビリテーションは重要な役割を担っております。

私は、自分が開業するのであれば、整形外科治療にありがちな消炎・鎮痛処置を行うだけでなく、適切な運動療法を組み入れることで健康増進、疾患予防ができるということを実践したいという思いがありました。しかし当時は（現在もそうですが）理学療法士が不足しており、容易には開業医に来ていただけません。知り合いの理学療法士さんに無理をいって週一回土曜日に来ていただき、なんとかスタートいたしました。おかげさまで現在は非常勤の理学療法士6名のローテーションで毎日理学療法士のリハビリが受けられる体制になりました。これまでも県立西宮病院整形外科の先生方には、保存的療法で経過を見る場合や術後早期退院後、外来通院でリハビリが必要な患者様をご紹介いただいております。最近では、当院通院中の患者様のご要望もあり訪問リハビリを始め

ました。今後は在宅診療でも密に連携していけたらと考えております。

今回の投稿の依頼にあたり、整形外科部長 正田 悦朗先生から、「要望などあれば、なんでも好きなこと書いていいですよ。」と言われました。なんでもいいと言われてもなかなか書けないものです。阪神西宮地区において、開業医を含めるそれぞれの医療機関がどのような役割を担っていくのかを考え、病診連携を進めていくことによって、住民の方々が安心して診療を受けていただける体制を作っていく。そのことが我々開業医にとっても安心して医療に専念できる環境ではないかと思っています。微力ながら地域医療に貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。今後ともご協力のほどよろしく願いいたします。

## 医師の紹介

—— 赴任医師からのご挨拶 ——

### 耳鼻咽喉科

太田 有美

平成21年5月より耳鼻咽喉科に赴任いたしました太田有美です。平成8年大阪大学医学部を卒業したのち、大阪大学医学部附属病院、国立大阪病院、市立堺病院、市立伊丹病院を経て現在に至っています。その間に出産もし、子育てもしながら様々な臨床経験を積ませていただきました。子育ての経験も日々の診療の役に立っています。

市立伊丹病院では一人医長で、外来診療、入院患者の管理、手術、院内の会議出席など全て一人でこなさなければなりませんでしたが、当院には優秀な後輩である倉増医師がいるので、非常に助かっています。

当科では耳鼻咽喉科疾患全般にわたって診療していますが、特に鼻内視鏡手術、耳科手術を積極的にやりたいと考えています。頸部の良性疾患（耳下腺、顎下腺、側頸嚢胞、正中頸嚢胞など）の手術も行っています。手術が必要な患者さんはもちろんのこと、突発性難聴や顔面神経麻痺、めまい、急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍など、入院が必要な患者さんも、地域の先生方からのご紹介とあらば可能な限り受け入れるようにしたいと思っています。どうぞよろしく願い申し上げます。

### 小児科

田中 真也

この度、7月から小児科医長に赴任いたしました田中真也です。研修医として10数年前に当病院で研修後、大阪府立母子保健総合医療センター新生児科、愛染橋病院周産期センターなどの総合周産期センターで未熟児・新生児医療に従事してまいりました。当病院も平成19年6月から小規模ながらNICU認可を受け24時間体制で地域周産期医療を担うべく頑張っております。今後さらに地域の周産期医療に貢献できるように努力してまいりたいと思いますので、ご指導よろしく願いいたします。基本的には26週以上の早産児に対応できますので、入院依頼などありましたらご遠慮なくご相談いただければ幸いです。

# 「兵庫県立西宮病院の基本理念および基本方針」

## 【基本理念】

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。

## 【基本方針】

1. 患者さんを中心としたチーム医療を推進します。
2. 地域と連携した急性期医療を提供します。
3. 救急医療（二次、三次救急、小児救急）に精力的に取り組めます。
4. 腎移植、特に献腎移植を推進します。
5. がんや生活習慣病の予防と早期発見・早期治療に努力します。
6. 少子化時代にあって周産期医療、母子医療を重視します。

## — 編集後記 —

太陽の日差しがまぶしく照りつける季節になりました。

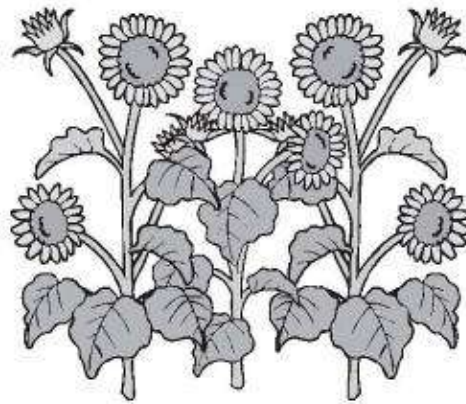
今回もはまかぜを御覧頂きありがとうございます。

当院医療相談室では毎年夏に、社会福祉を志す学生の実習をお受けしており、今年も数名の実習生を迎えました。ソーシャルワーカーの専門領域は福祉施設・福祉関連事業所・公的機関・医療機関など、多岐にわたりますが、なかでも保険医療分野で生活相談に応じる医療ソーシャルワーカーの役割や医療チームの一スタッフとしての必要性が拡がりつつあるのでしょうか、病院などの医療機関への実習を希望する学生が年々増加傾向にあるようです。学生が緊張した面もちで実習を受けているのを見ていると、自分自身の学生の頃が思い起こされ、初心を思い出し、身が引き締まる思いがします。

地域の医療機関とのスムーズな連携をはかる上でも重要な役どころと自覚し、患者さんやご家族が安心して療養していただけるよう、しっかりと橋渡し役を務めていきたいと思っております。

今後とも、皆さまのご協力、ご指導を宜しくお願いいたします。

(医療相談室 MSW 高橋典子)



## 兵庫県立西宮病院

〒662-0918 西宮市六湛寺町13番9号  
電話(0798)34-5151(代表) FAX(0798)23-4594  
地域連携室直通 FAX(0798)34-4436  
地域連携室 E-mail chiki-kn@hp.pref.hyogo.jp